

授業科目名 (英文名)	道徳教育論 (Studies of Ethical Education)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	2年次・前期
担当教員	谷田 増幸	所属	非常勤講師
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>「道徳教育に関する基礎的な理解と道徳科の実践的な指導方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解できる。 ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解できる。 		
講義内容・授業計画	<p>講義内容</p> <p>講義内容</p> <p>子供を取り巻く社会の変化、道徳の本質、道徳教育の歴史、道徳性の発達等を踏まえて、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について基礎的な理解を図る。その上で、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な力量形成に資する質の高い多様な指導方法を身に付ける。</p> <p>授業計画</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：子供を取り巻く社会の変化と道徳教育（いじめ及び情報モラル等）</p> <p>第2回：道徳の本質（道徳とは何か）と道徳教育</p> <p>第3回：わが国の道徳教育の歴史（戦前）（戦後）</p> <p>第4回：諸外国における道徳教育の実際</p> <p>第5回：子供の心の成長と道徳性の発達</p> <p>第6回：道徳教育及び道徳科の目標並びに主な内容</p> <p>第7回：指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>第8回：教育活動全体を通じて行う指導及び家庭や地域社会との連携</p> <p>第9回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法</p> <p>第10回：道徳科の特質を踏まえた学習評価の考え方</p> <p>第11回：学習指導案づくり（教材の分析・解釈、ねらいの検討）</p> <p>第12回：学習指導案づくり（発問の工夫及び指導方法の工夫）</p> <p>第13回：学習指導案づくり（学習指導過程の構想、評価の進め方、板書計画）</p> <p>第14回：模擬授業の実施及びその振り返り（読み物教材の登場人物への自我関与）</p> <p>第15回：模擬授業の実施及びその振り返り（問題解決的な学習）及び全体のまとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>		
テキスト	<p>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』（教育出版株式会社）</p> <p>小寺正一/藤永芳純編『四訂 道徳教育を学ぶ人のために』（世界思想社）</p>		
参考文献	授業中に適宜資料を配付する。		
成績評価の基準・方法	<p>成績評価の基準</p> <p>道徳教育に関する基礎的な事項を理解し、道徳科の実践的な指導方法を創意工夫することができる者に単位を授与する。</p> <p>講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に応じてSからCまでの成績を与える。</p> <p>成績評価の方法</p> <p>レポート試験（70%）、学習指導案の内容及び模擬授業の発表内容（30%）を基準として、受講態度（積極的な質問など）を含めて総合的に評価する。</p>		
履修上の注意・履修要件	<p>事前にテキスト及び配布資料の該当箇所に目を通し、関連する文献検索・分析をした上で、毎回講義にのぞむこと。また講義中に指示された課題に沿って十分な復習を行い、その上で予習に取り組むこと。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に伴う特例措置に基づく遠隔授業</p>		

	<p>・当授業は、原則全ての授業を対面で実施する予定ですが、履修者人数によっては、新型コロナウイルス感染症対策として、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とすることがあり、自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境(PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境)が必要となる場合があります。最終的な授業方法は履修登録後に決定・連絡します。</p>
実践的教育	<p>中学校・高等学校における教員経験及び教育委員会等における行政経験のある者が、その経験を活かして道徳教育の指導方法等について講義を行う。</p>
備考	<p>特になし。</p>